

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2774002170		
法人名	有限会社 岸本総合企画		
事業所名	グループホームアミティ豊中		
所在地	大阪府豊中市蛭池南町3丁目8-1		
自己評価作成日	平成 30年 12月 31日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ijyosovoCd=2774002170-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 31年 2月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念の「その人らしさを大切に 住み慣れた町で仲良く ゆったり 豊かに 楽しい生活を」を基にして、季節の移ろいを感じていただけるように、季節行事を充実させ、おせち料理や節分の恵方巻き、お花見やバーベキュー等楽しんでいただけるように努めています。
生活と医療のバランスを考え、出来る限り自立した生活を送っていただけるよう、入居者様の「出来ること」、「出来ないこと」を見極め、入居者様に不安や混乱を極力感じていただかないように努力しています。
薬に関しても、必要最低限の服薬で、副作用を出来る限り少なく過ごしていただけるようにしています。
医療的には、早期発見、早期対応を心掛けています。家族様と相談し、主治医の先生とも、連絡を密に取り、診察の合間の往診や休日往診、夜間往診もして頂いています。精神的な症状が増悪したり、突発的にでた場合には、家族様に相談し、メンタルクリニックへの受診や、往診につなげています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

有限会社岸本総合企画が運営する2ユニットのグループホームです。設立後15年を経過し、新たに虐待防止の課題に取り組むなど、行政と連携しながらホーム運営を進めています。ホームは4階建てで利用者は2・3・4階を居住空間としています。屋上には広いテラスがあり家庭菜園等、多目的に活用することができます。居間には絵画や手作りの作品等を掲示し、季節柄お雛さまを飾って楽しんでいます。空気清浄機や乾湿計等を配置して清潔で明るく居心地の良い環境づくりをしています。季節の良い時期には積極的に散歩や買物、お花見や盆踊り、運動会、もちつき、外食等に出かけて楽しんでいます。ホームでは提携医師の協力により24時間医療連携支援を行い、利用者の体調に変化があればいつでも往診を受けることができます。利用者家族の要望に沿って終末期支援にも取り組んでいます。代表者や管理者は職員研修を充実し業務を改善するなど、職員の育成と定着に力を入れています。家族や地域とも連携して、きめ細やかな利用者支援とサービス向上を目指しているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員室横に掲示しており、出勤時、退勤時、目に付くようになっており、1人1人が確認できるようにし、スタッフ全員が内容を理解し、ユニット会議では、個人個人の入居者様にとってのその人らしさを話し合いケアにつなげている。</p>	<p>『その人らしさを大切に住み慣れた街で仲良く「ゆったりと」「豊かに」「楽しい」生活を』を理念として掲げています。理念はホーム内に掲示して共有しています。職員は会議等で理念について話し合い、日々の支援に活かせるように具体化しています。新規入職者には理念を分かりやすく説明して、地域密着型サービスの意義をふまえた利用者支援を進めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>隣接した公園に職員や入居者様と近所の方々との団欒の場がある。職員は出勤時、退勤時に挨拶や会話を交わしている。 地域とのつながりとして、運動会や盆踊り、餅つき等に参加させて頂き、近くの神社のおみこしが町内を練り歩く際、ホームの前で止まり、見せて下さる。 近隣の保育園と地域交流の一環で、園児さんに来所して頂き、お遊戯や作品をお土産として頂いている。 中学生の職場体験に協力しており、学生2名の受け入れをしている。 地域住民の方にサンタクロースのボランティアをお願いし、毎年来て頂いている。</p>	<p>ホームは自治会に加入し、地域のお祭りや盆踊り、運動会や餅つき等の行事に参加しています。中学生の職業体験を受け入れ、年に2回の近隣保育園児の訪問、大学生の「アカペラ」演奏、敬老の日の催し、同法人内の利用者間で行う「金曜クラブ」での交流、介護相談員の来訪等、利用者は様々な交流の機会を持っています。ホーム主催の「アミティ喫茶」は、近隣の住民を招いて、利用者と一緒に美味しいコーヒーを味わいながら歓談する交流の場となっています。ホームのクリスマス会には地域のボランティアがサンタクロースになって現れるというサプライズもあり、利用者の楽しみ事になっています。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>電話相談に対しても、おおむね状況を聞かせていただき、当ホームの限界をお伝えし、納得していただいた上で、他のサービス等の紹介をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>概ね2ヶ月に1回開催し、入居者様の状態や地域の行事への参加、今後の行事の予定、クラブ活動等の催し等を報告している。 メンバーの方から、地域の行事への参加のお誘いやウエスの寄付等入居者様へのサービスの質を向上させる為の助言や地域の方々との交流の橋渡しをしていただいている。</p>	<p>運営推進会議は規程に沿って2か月に1回、年6回の開催をしています。構成メンバーは利用者、利用者家族、地域住民代表、知見を有する者、地域包括支援センター職員、事業所職員等です。会議ではホームから利用者の状況や運営、行事の報告等を行い、参加者からは地域行事のお知らせや、事業所に関する情報提供等があり、活発に意見交換をしています。出された意見や要望等については、職員間で共有しホーム運営に活かしています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>書類提出等で月1回は市の窓口を尋ねるようにしており、気軽に相談できる関係作りに力を入れている。 そのほか社会福祉協議会からの相談員の受け入れや110番子供の家、市民救命サポーター・ステーションになっている。</p>	<p>管理者は月1回程度、市の担当窓口に出向き、書類の提出や情報交換を行い、ホーム運営や利用者支援等についても相談しています。介護相談員の受け入れを行い、「こども110番の家」「市民救命サポーター・ステーション」となるなど、市が推進する取り組みに積極的に参加して、市との協力関係を築いています。昨年は虐待防止について、市担当課の指導を受けて取り組みを進めるなど、市との連携を強めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>拘束は、基本的には一切しておらず、すべての職員に徹底している。</p> <p>電子ロック錠に関しても、横に暗証番号を掲示しているので、3階の入居者様は、リビング、居室を自由に昇降される方も居られる。</p> <p>言葉の拘束に対しても、その都度話し合い、行動を抑制するような声掛けは極力せず、入居者様お一人お一人が思い思いに過ごせるよう心掛けている。</p>	<p>昨年、ホーム内で元職員による利用者への虐待行為があり、当事者以外の職員は気が付かないまま、転倒事故として処理されていたことが利用者の訴えから発覚しました。事件対応に市の担当課が出動し、通報の義務、虐待防止の取り組みを徹底するよう指導を受けています。該当職員は退職し、残る職員で全力をあげて「虐待防止」の取り組みを進めています。研修の実施、ミーティングでの意見交換、職員と管理者の面談、勤務体制の調整、ストレスへの対応等、市の指導のもと、あらゆる取り組みを行い、虐待防止を徹底しています。身体拘束についても、職員研修を行い、スピーチロックを含めて「拘束を行わないケア」を実施しています。ホーム玄関とエレベーターは終日電子ロックをしています。解錠の際にはボタンの横に表示している暗証番号を押すようにしています。一部、暗証番号を活用してエレベーターを昇降している利用者もいますが、ほとんどの利用者は活用できていない状況です。</p>	<p>利用者の安全性を確保しながら、「鍵をかけないケア」について、取り組むことが求められます。玄関及びエレベーターの解錠については職員間で話し合い、できることから取り組んではいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が、今後起きないように、施設及びスタッフが一丸となり、動画研修やミーティング、管理者とスタッフの個人面談に取り組んでいる。ユニット内でも、日常的に管理者やリーダーが職員とコミュニケーションをとり、不満や意見を聞き、常に職員の心のケアに勤めるよう心掛けている。 人と人のかかわりの中で性格上合う、合わないがあり、時間やタイミングによっても変わってくる。そのことを踏まえ、スタッフ同士で助け合い、交代し合える様に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者およびケアマネージャーが対応しており、職員への説明はその都度行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、図表を取り入れ、わかりやすく簡素化した上で、それを基に口頭で説明を加え理解していただけるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員さんの定期的な来所により、入居者様からの相談事については、相談員さんから施設側へのフィードバックできる体制を取っている。</p> <p>家族様に対しては、管理者やケアマネージャーが面会にこられた際等に話を聞き対応させて頂いている。</p> <p>玄関には、公的な苦情受付機関や介護相談員の来所日をお知らせし、相談、苦情解決の第三者窓口を紹介している。</p> <p>その他、ホーム内での相談（苦情）受付担当者や相談（苦情）解決責任者を掲示している。</p>	<p>家族来訪時には、管理者や計画作成担当者が利用者の様子を報告し、意見や要望を聞いています。利用者・家族の要望や意見が速やかに管理者へ届くよう、ホーム内に相談受付担当者や相談（相談）解決責任者名を掲示しています。相談記録は職員間で共有して業務に活かしています。毎月、利用者の様子を知らせる写真入りの「アミティ通信」を家族に送付して、家族からの意見が出やすいようにしています。介護相談員を通じて利用者の声や希望が出された場合には、職員間で共有し支援に活かしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議で、スタッフより意見を集め、リーダーは、運営会議に参加し、代表者、管理者と意見交換ができる時間を設けている。 その他、代表者、管理者はスタッフと個別に話し合う時間を設けるように努めている。</p>	<p>管理者は日常的に職員の声を聞き、業務に反映できるように努めています。また、ミーティングやユニット会議で出された意見を活かし、業務の改善につなげています。運営に関する課題については、事業所運営会議で検討し反映するよう取り組んでいます。代表者や管理者は、職員と個別に話し合う時間を設け、ストレスの軽減、勤務体制、希望する研修への参加等、職員の声を聞き対応しています。各種会議の内容は議事録に記載し、全職員に周知しています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、スタッフと会話する時間を多く持つようにしており、ストレスの軽減や予防、研修への参加希望等に耳を傾けている。 各スタッフのレベルに応じた研修への参加要請も行なっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>奇数月にミニケアレポートと称し講師が事業計画で定めた季節に応じた感染症や病気、ケアの注意点をお題に何問か出題し職員が宿題として行うミニケアレポートと偶数月に講師が事業計画で定めたお題を職員に講義する内部研修を実施している。 内部研修に参加出来ないスタッフには回覧研修を行っている。外部の研修も案内を掲示し、希望があれば検討している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>事業者連絡会や地域のグループホームの合同運営推進会議に参加させていただき、研修や事業所で抱えている悩みを相談する機会を設け、活発に意見交換や交流を図っている。</p>		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居当時は不安が多く、混乱されていることも少なくない。そのことを踏まえ、家族様より生活暦、趣味趣向を聞き、コミュニケーションの時間を多く持ち、各スタッフを信頼し、安心して過ごしていただけるよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談では、おおむね状況説明をして下さるが、来訪されてからは、相談できる場所は設けているが、初回より話される家族様は少なく、何度か来訪されるうちに信頼関係が築け、辛かった日々を打ち明けられる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話相談時におおむね状況を聞かせていただき、当ホームの限界をお伝えし、納得していただいた上で、他のサービスの紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の風習や方言等教えていただいたり、相談したり一緒に考えたり出来るように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様来訪時には、職員との意見交換が出来る時間を設けており、現在の状況や生活暦、本氏からの言動等の疑問を相談し今後のケアの方針を話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ホームの開放により、馴染みの人の来所はなされており、外食やお散歩に行かれる方も居られる。</p>	<p>友人、知人の来訪時には、利用者の居室でゆっくり話ができるよう支援しています。利用者が教会等、馴染みの場所に出かけたり、友人と面談したりできるように、家族の協力を得ながら支援しています。また、友人や遠隔地の家族との関係が途切れないように、手紙や年賀状を出したり、電話をかけたりする際の支援をしています。携帯電話の使用については家族と相談しながら対応しています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>カラオケや園芸、手芸等のクラブを作り、得意な事、昔されていたことに参加していただいている。その中で馴染みの関係を作り、共に作業したり、お互い助け合ったりされている。 日常生活の場においても、入居者様同士困っておられたら助け合う関係が出来ているので、人間関係を考慮し、席を考え、入居者様同士親睦を図れるよう心がけている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護度の関係や入院治療等の理由で退所された方に対して、電話連絡やお見舞いに行き、本人様の容態や、家族様の悩みを尋ねるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いや暮らし方をたずね、それに沿って支援できるよう心がけている。本人様から聴取が困難な場合は、家族様より生活歴や趣味等を聞き、本人様に楽しんで頂ける様に心がけている。入居後に会話等の中で出た新たな情報は生活履歴追記シートに記入して情報の共有をしています。	職員は日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや意向をさりげなく聞き取っています。利用者との日常会話の中で得られた情報については、生活履歴追記シートに記載して職員間で共有し支援に活かしています。言葉で表せない場合には、表情やしぐさ、行動等で確認しています。また、家族の協力を得て本人の意向を確認することもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際、所定の用紙を家族様に記入して頂きその情報を元に本人様とコミュニケーションを取り、情報を得ていくようにしている。入居された後、家族様と信頼関係が徐々に構築され職員との会話の中で、本人様の情報をお教えいただいた際に記入できる生活暦追記シートを使用し全ての職員が出来る限り同じ情報量を共有できる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操や散歩、昼寝等習慣化された事やその日の状態によって、1人、ひとり違った一日を過していただいている。又、一人、ひとりが日々過されていく中でも、有する力が変化して行く事を頭に入れ接し、何気ない動作の中にもいつもと違う何かを感じ取れるようにし、総合的に判断、把握できるように努めており、その日の出来る事、出来ない事を判断し、その場、その場で、対応を変える様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>家族様に面会時、希望、要望を聞くだけでなく、現場職員の意見を反映する為にケア会議やフロアーミーティングにより話し合う場を設けている。</p>	<p>介護計画書は、職員間でアセスメントを行い、利用者・家族の意向を確認し、ケア会議やフロアーミーティングで話し合っ作成しています。必要時には、医師や看護師等のアドバイスを受け、利用者家族を交えて話し合いをしています。介護計画書は職員間で共有し、実施記録を残してモニタリングを行い、3か月毎に見直しをしています。介護計画書は家族に説明し、了承を得ていますが、遠隔地等で家族に直接会えない場合には、速やかに郵送して同意を得ています。</p>	<p>ホームでは独自の課題として、介護計画書をさらに具体化し、職員が介護計画書を見て対応できるよう、また事細かな部分まで記録に残すよう取り組む予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>スタッフの気づきや発見、入居者様の言動を記入するようにしており、書き方を統一するように心がけている。</p> <p>ケアチェック表にはケアプランも記載されており、毎日サービスが提供できたかチェックする枠が設けられており、介護計画の見直しに役立っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>通院等家族様の意向により職員や管理者が付き添い出かけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>選挙や敬老の集い、市民健診等に参画し、小学校や中学校に出向いる。その他、地域の季節行事も介護相談員の方から声を掛けていただき参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所以前からかかりつけ医が居られる場合は、入所されてからも継続していただけるよう体制を取りドクターと事業所との信頼関係を構築し保てるよう心掛けている。</p> <p>病状が変わられた場合に関しても、本人様、家族様と相談し、新規に病院と本人様、事業所の信頼関係を築けるよう心がけている。ターミナルケアも視野に入れ、夜間や急変時にすぐ往診して頂ける医師に主治医になって頂いている。</p>	<p>希望があれば入居前からのかかりつけ医（眼科、耳鼻科）への受診も、職員が付き添うなどの支援をしています。</p> <p>内科は利用者の同意の上で、ホーム主治医による月1回の往診を受けています。ホーム看護師は介護職員と連携して利用者の状態を主治医に報告し、健康管理を行っています。夜間や急変時などは24時間いつでも主治医と連絡が取れる体制をつくり、夜間にも往診を受けることができます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連絡ノートを作成している。その他にも、口頭での指示、実際の手技を観て看護師がいない場合でも、出来る範囲で支援している。受診の際も、本人様の状態を看護師に伝え、本人様の状態を把握し、適切な医療、処置を受けることが出来る様、出来る限り看護師も立会い受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医と連絡を密にとり、症状が悪化しないように早期発見、早期対応を心掛けており、入院された場合は、入院された医療機関に、なるべく短いスパンでお見舞いに行き本人様の状態を直に観察し、ドクターや看護師から状態の予後を聞き早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、ホームの限界を説明し、理解していただいております。家族様とは、面会の際、常に話し合いの時間を持ち、終末期の方向性を検討し、主治医や看護師から助言をいただき、本人様の意向になるべく添えるようにしています。	入居時に重度化や終末期への対応について説明し同意を得ています。看取り支援については、その状態になった時に家族と話し合い、希望があれば日常支援の延長という形で行っています。平成29年度は3名の方の看取りを行いました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員はほぼ全員普通救命講習を受講しており、市民救命サポーター・ステーションに登録している。 定期的にフロア会議等で緊急時の対応を再確認している。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策のマニュアル、緊急連絡網を作成し、災害時対応出来る様に体制を整えている。 年2回避難訓練を実施している。</p>	<p>災害対策マニュアルを作成し、緊急連絡先や備蓄品リストなども一覧にして職員に周知しています。水や食料品などの備蓄も行っています。避難訓練は消防署と連携して定期的に年2回実施しています。非常災害時に地域と連携するための「アミティグループ地域防災支援組織」を結成しています。平成30年の夏、台風の影響で長期に停電し、職員は利用者を猛暑から守るため奔走した経験があります。この経験から家庭用発電機等の備えも検討課題としています。</p>	<p>年に2回避難訓練を実施していますが、記録が簡素で内容が分かりにくくなっています。訓練時の状況、参加者数、訓練時に気付いた課題等を記録に残してはいかがでしょうか。利用者の様子は写真で保存するなどして、次回の訓練に反映することが望まれます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいやプライバシーについては会議や内部研修、ミニケアレポートのお題としても取り上げ、個人レベルでも勉強し、徹底している。日頃のケアの際も、耳障りな表現や不適切な声掛け等を互いに注意し合える関係作りをしている。	利用者を尊重した支援や言葉遣いについては、職員研修やフロア会議後のグループワークで話し合い、職員間で共有し実践しています。管理者は言葉遣いについて馴れ馴れしくならないように、年長者に対する敬意をもって関わることを大切にしています。不適切な言葉遣いがあった場合には職員間で注意し合える関係を作っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望や要望を理解力に合わせた表現方法で納得して頂き、職員には決定権は本人様にあることを徹底している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営理念にもあるように「その人らしさを大切に」を念頭に置き日々業務を優先するのではなく、まずは共に座りコミュニケーションを密にすることを優先し、笑顔が見られる対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は本人様に服を選んでいただいている。 基本的にはホームへ来訪し行なっていただいているが、理容、美容に関しても、希望に沿える様な体勢をとっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝っていただける方には、食食用マット拭き、机拭きに参加していただいている。 箸や茶碗、湯飲みに関しては、使い慣れたものを持ってきていただき使用していただいている。 希望があれば、外食やホームでお好み焼き、たこ焼きを作り食していただいている。 入居者様、家族様にもご好評頂いているバーベキューを屋上や玄関先を利用し年二回開催している	食事は3食とも調理されたものが業者から届けられています。ご飯や汁物などは各フロアで作っています。利用者は配膳や後片付けなど、それぞれができることを行なっています。日々の食事が単調にならないように、利用者の希望を聞いて、巻き寿司やちらし寿司、お好み焼きなども手作りしています。また利用者と一緒にホーム周辺の中華料理、回転すしなどの外食にも出かけています。また年に2回ホームで家族も参加してバーベキューを楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の摂取量をケアチェック表に記録し、全職員が情報を得られるようにしている。</p> <p>水分に関して、嚥下困難な方に対しては、トロミをつけ、コップで飲みにくい方に対しては、吸い飲みで提供している。</p> <p>食事に関しても、咀嚼の状態に合わせて、刻みやミキサー等、その方にあわせていろいろな形態でお出ししている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>起床時、毎食後、就寝時の歯磨き、口腔ケアを実施している。</p> <p>又、歯磨きが困難な方には口腔ケア用のウェットティッシュで清拭させて頂いている。</p> <p>義歯使用の方には、適宜ポリドントを使用し洗浄させて頂いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>入居者様一人、ひとりの排泄リズムを把握するため、チェック表を作成し、パターンをつかむよう心掛け、声かけを行っている。 拒否もあり、難しい点もあるが、普通の下着、紙パンツ等段階を経ている。 少しずつではあるが、オムツの方も、出来る限り、トイレに座り排泄していただけるよう支援している。</p>	<p>職員は排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄状況を確認し、時間を見て声かけするなど、できるだけオムツ類に頼らない支援をしています。重度化した場合でも便意のある利用者にはトイレやポータブルトイレでの排泄を試みるなど、利用者の自立支援に取り組んでいます。利用者の状況に沿って細やかに支援することで、排泄の自立につながった利用者もいます。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分補給やホットパック、着座して頂き腹部マッサージを行う等支援させていただいている。 入居者様によっては、下剤の使用や食事の際お茶をゼリー状にしたものを食べて頂いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>スタッフの都合を優先させるのではなく、入居者様の気分やその日の体調で判断し、極力本人様の希望に沿えるようにしている。 菖蒲湯やゆず湯など季節感を感じて頂ける様にしている。 車椅子の方が多く、多少の難しさは有るが、シャワーキャリーを購入したり、リフトの購入を検討している。</p>	<p>ホームでは、特別な行事等がない限り、週2～3回の入浴支援をしています。希望があれば、予定外の日でも入浴することができます。また、体調や気分がすぐれない場合には、無理に勧めず翌日に変更するなど、利用者の状況に沿って臨機応変に対応しています。季節には柚子湯や菖蒲湯など、かわり湯を楽しむ支援もしています。利用者の重度化に伴い、より安全に入浴できるようシャワーキャリーを導入し、さらにリフトの購入を検討しています。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居者様一人、ひとりの生活習慣をなるべく崩さないよう心掛け、一日の中で睡眠時間を確保している。また、レク等も強制せず、帰室される方は自由にさせていただいている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>症状、服薬に関して申し送りノートに記し、薬を組む者、確認する者、服薬支援する者、その薬が本人様であるか確認する者、という風に薬に関する確認は二者確認しており、入居者様全員の内服に関しては、内服一覧表と、写真入で作用、副作用を確認できるようファイルを作っており、職員全員が閲覧している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>習慣化することで、ご自分の役割だと感じていただけ、今は、日めくりカレンダーをめくったり、テーブル拭きを継続されている。又職歴や趣味を活かせるお手伝いをお願いしている。 懐かしい歌の番組やビデオを見ていただくと口ずさまれる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>屋上への外気浴や洗濯物干し、散歩、近所の公園には出かけているが、拒否もあり、毎日は難しい。 ベランダにプランターを置き、野菜や花を植え、水遣りをしていただいている。 本人様の希望により近くの店へ買い物に出かけたり、喫茶店へ出かけているが、場所等により家族様の都合もあり実現は困難に近い。 家族様やボランティア等の協力による外出については検討はしているが実現できていない。</p>	<p>気候の良い時期には周辺の公園の散歩や買物、喫茶店に出かける等の取り組みをしていますが、真夏や冬場は外出の機会が少ない状況です。年間行事では、お花見、地域の盆踊り、運動会、敬老会、餅つき等に出かけています。利用者の高齢化や重度化により、外出意欲が低下していることもあり、以前に比べて外出の機会は少ない状況です。</p>	<p>ホームでは家族やボランティア等の協力を得て、外出行事を増やすよう取り組む予定で検討しています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自動販売機で、コーヒー等を購入される際は、お金をお渡しし、ご自分の好みの物を選び、購入していただいている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>事務所へご案内し、電話をかけていただいている。時間帯によっては、フロアーからも電話できるようにしている。 年末には年賀状を作成し、投函された。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンキッチンになっており、視、聴、嗅覚で料理を感じていただける。毎月ボードに装飾をして季節感を出している。 カーテンを2重にする等不快な光を極力なくし、各居室、リビングの照明に関しても段階的に調節できるようになっている。	玄関を入ると、応接間、事務所等があり、利用者が過ごす2・3・4階には、玄関横のエレベーターで上がることができます。屋上には広いテラスがあり、洗濯物を干したり、プランターで野菜を育てたりしています。2・4階には居間兼リビング、キッチン、浴室、居室を設置し、3階は居室専用になっています。リビングは明るくさわやかなカーテンで彩り、テーブルとイス、ソファ、テレビ、雑誌等を置いて、利用者がくつろげるようにしています。トイレは広く車イス対応もあり、浴室は家庭的で安全に配慮してイス等を配置しています。居間には利用者が描いた絵画や手作りの作品等を掲示し、季節柄お雛さまを飾って楽しんでいます。温度計や乾湿計、空気清浄機を配置して環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れた場所に、二人がけのソファを置き、お一人や気の合う者同士でくつろいでいただいている。 食事の席で、気の合う方同士お話をされたり、新聞や雑誌を読まれたりされる。又、別のソファでもお話やテレビを楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで使用しておられた家具や寝具等を、入居時に出来る限りもって来ていただき、使用していただいている。 入居者様の中には家族様、ご友人から頂いた花等を飾っておられる。 カーテンは、防火カーテンを使用しているため、ホームの物を使用していただいている。</p>	<p>居室入口には表札をかけて分かりやすくしています。居室には大きな窓があり、明るく周辺の景観を楽しめます。利用者は、居室に使い慣れた寝具やタンス、テレビ、時計、冷蔵庫、仏壇、写真、ぬいぐるみ等を持ち込み、くつろげるよう工夫しています。ホームでは備え付けの防火カーテン、クローゼット、ベッド、洗面台、エアコン等を設置し、さらに希望があれば机やイス、タンス等も無料で貸し出しをしています。居室内の整理整頓、清掃、空調等は、職員が担当を決めて支援しています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>エレベーターや玄関には、解除番号を掲示している。 各居室には、手作りの表札を作り、トイレに関しても手作りで案内や札を作り、わかりやすいよう配慮している。 動線にはなるべく物を置かず、十分なスペースを確保している。 必要な方の居室内、廊下等入居者様が不安に思われるところには手すりを設置している。</p>		